



嶋野 勝 福智町長

まちの可能性が示された

今回「アイデア次第で“やればできる”」というまちづくりの可能性を示せたことが、寄付額以上に最も大きな成果だと思っています。町職員はもちろん、商店や住民のみなさんが“次は何ができるか”を前向きに考えるきっかけになれば、非常にうれしいです。みなさんのおかげで得た貴重な財源。将来的には子育てや教育、定住促進などを中心に町の活性化に役立てていくつもりです。



福智町 ふるさと納税特設サイト 検索

↑240種類以上のお礼の品を選べるふるさと納税特設サイト。町外に住む親戚や友人にぜひ広めてください！

身近なものに秘められた新たな価値 まぢの誇り

11億6千万円、5万件以上の寄付をいただいた平成27年度ふるさと納税。前年度総額の556倍という驚異的な数字を残した福智町のチャレンジでした。そんな激動の1年がスタートするきっかけとなったのが、あるテレビの全国放送です。番組の中で最も注目されたのは、町の老舗焼肉店「ボタ山」の秘伝のタレ。まちと人の創意工夫と発想の転換を象徴した、ごく身近な資源でした。



焼肉ボタ山の宝ともいえる炭都筑豊を代表する秘伝のタレ。

全国1788自治体中、寄付額22位、件数18位

「私しか作れんやったタレやけど、もう一人任せられるようになったんよ」。にこやかな表情でタレの状態を確かめる焼肉ボタ山の店主・坂田順さん(赤池)。忙しい店を今年4月からは娘が手伝うようになり、秘伝のタレの仕込みが受け継がれました。そのきっかけを作ったのが福智町のふるさと納税。空いた時間に発送作業を一緒にこなします。
「知り合いの家で食べて美味しかったからって、東京から問い合わせがあったんよ。全国の人に知ってもらえて、本当にありが

たいこと」と、店名を掲げたシールを発送用の箱に貼っていいに貼っていきました。
昨年度は12月のひと月だけで6億円以上、大みそかのたった1日で2千件、5千万円を超える寄付が寄せられた福智町。覚悟して臨んだ取り組みとはいえ、生産者も町職員も未知の体験でした。休日も関係なく連日深夜まで対応に追われ、これまでにない年越しを経験しました。
全国が注目した「福智方式」
ふるさと納税制度が全国的に始まった当初心配されたのは、資源や生産量に恵まれた地域とそうでない地域の格差でした。福智町には全国規模で群を抜くほ

どの産物はありません。あるテレビ番組で「福智町は条件的に最も不利な町」と紹介されたほど。その中で見いだしたのが「ブランド牛が無いならタレで勝負」「海が無くても魚市場がある」といった発想の転換でした。町と生産者が諦めずに知恵を絞って創意工夫する独自の「福智方式」が注目され、話題を呼びました。
今まで当たり前過ぎて気付けなかった魅力が、全国にも通用する新たな価値へと高まった福智町のチャレンジ。その結果は、ゆるぎない明確な数字となって示されています。まだまだやれる。…そう信じて生産者が全国へ届け続けた6万2千件の返礼品。その数以上に、ふるさとへの誇りが高まっています。

2015年度福智町ふるさと納税データ

総額：11億6689万円(前年度:210万円)

件数：50,738件(前年度:21件)

寄付元：1位 東京、2位 神奈川
3位 大阪、4位 愛知

- 2016/3/31 年度寄付総額11億6689万円
- 2016/3 3月定例議会で増額補正予算
- 2015/12/20 フジテレビ「新報道2001」全国放送
→福智町約5分放送。ゲスト/菅義偉(菅義偉)町長
- 2015/12 福智町寄付金額10億円突破
→福智町約10分放送
- 2015/12/14 KBCテレビ「アサデス」放送
→福智町約10分放送。「ふるさと納税福智方式」
- 2015/11 クロスFMで4週連続ラジオ放送
- 2015/11 TBSニュース23で紹介される
- 2015/10 魚市場のカニが全国人気ランキング1位
- 2015/9/22-23 福智スイーツ大茶会でPR
- 2015/9/13 リバーウォーク小倉でPR
- 2015/8/28 全国先進地自治体会議出席
- 2015/8/26 RKBテレビ「もち派ストア」放送
→福智町約10分放送。「1億円超の駆けつけ」
- 2015/7/30 臨時議会で増額補正予算
- 2015/7 福智町寄付金額1億円突破
赤池製が全国人気ランキング上位に
- 2015/7/3-4 ふるさと納税九州サミットに参画
- 2015/6/1 福智町ふるさと納税九州サミットに参画
- 2015/4 ふるさと納税(ヤフー公金払い)受付開始
- 2015/4/28 福智町ふるさと納税特設サイト開設
- 2015/4/5 「ふるさとチョイス」で寄付受付スタート!
→全国放送に含ませ当初の開始予定を2か月前倒し
- 2015/3/27 フジテレビ「新報道2001」全国放送
→福智町約13分放送。ゲスト/石破茂(地方創生担当大臣)
- 2015/3 福智ふるさと納税セミナー開催
→講師/長崎県平戸市役所 黒瀬啓介氏
トラストバンク代表取締役 須永泰代(社長)
- 2014/12- 年度目標額を1千万円に設定
- 2014/11/27 店舗集・店舗まわり開始(長崎県平戸市)

2015年分寄付締切

2015年度START!

←← HISTORY



掲載された雑誌は20冊以上。



12月31日まで寄付を受け付け、12月だけで2万5千件、6億1千万円の寄付をいただき、10億円を突破しました。



「町村から日本を元気にする」をテーマに、東京都千代田区の東京国際フォーラムで開催された町村のイベント。福智町への寄付が最も多い東京で、2日間で来場した5万2千人に福智町のふるさと納税の魅力を積極的にPRしました。



2014年度1位の長崎県平戸市、2位の佐賀県玄海町、4位の宮崎県綾町が主催の国内最大のふるさと納税サミットが平戸市で開かれ、福智町は福岡県代表として参画。サミット限定特典も企画され、特設ブースで福智をPRしました。



福智町のふるさと納税カタログ「まごころ通心」。生産者の顔や思いも掲載したあたたかさが特徴です。カタログは今まで4回リニューアル、7回増版。コスト削減のため、外注せずに職員がまごころ込めて手作りしています。



2014年度寄付額日本一の長崎県平戸市・黒瀬氏とふるさと納税ポータルサイトを運営する須永社長を招いて、福智町でセミナーを実施。この日、話題の2人の講演にテレビ取材が入り、福智町が注目されるきっかけとなりました。



日立マクセルの地域貢献活動により、へいちく「日立マクセル号」の運行が実現。企業の商品ポスターにも福智山がデザインされ、地元と密着したPRが展開されています。



へいちく「JAL号」での航空教室や「のりものフェスタ」などのイベントをはじめ、東京ディズニーランドのキャストや客室乗務員による教室、空港見学など、教育面でも深くJALと連携しています。



**福智町ふるさと納税 7月からの新たな企画特典
「福智への旅」プランが登場!**

国内初となるJALパックを使った返礼品「福岡への旅」。この商品に連動した福智ならではのツアーも企画され、町の魅力を伝えていきます。

●鉄道車両運転体験 /平成筑豊鉄道



金田駅で「へいちく」の車両を実際に運転できる貴重な体験。一生の思い出になる体験企画です。

●上野焼作陶体験 /上野焼協同組合



上野焼の窯元が手ほどきする作陶体験。世界にたった一つのマイ器が、旅の記憶とともに残ります。

●福智極み御膳 /活魚寿司たちはな



料理長が手がける福岡名物満載の御膳。もつ鍋や鮭めんたい、鯛茶漬けなどが贅沢に堪能できます。

●ジャンボタクシー送迎 /田川横内タクシー



福智町までの移動や町内の周遊、宿泊先までの送迎プラン。家族がゆったり車内で楽に移動できます。

小さな町が大企業と連携
創意工夫による福智のふるさと納税の返礼品の数々は、長年にわたる地元生産者との絆と信頼関係から生まれたものばかり。その中でもさらに特徴的なのが、大企業との連携商品です。
町内で最大の企業規模を誇る日立マクセルライフソリューション事業本部。昭和45年から九州日立マクセルとしてこの地で操業し、電気カメラソリで世界初のロータリーシーバーを開発しました。現在も最先端の技術による健康・美容家電の開発、デザイン、生産を手がけ、生活にうるおいを与える高品質な製品を生み出し続けています。この



TOTO全グループ社員が一丸となって取り組む環境保全活動「どんぐりの森づくり」は、福智町(旧方城町)が発祥。本年度からTOTOの福祉機器なども返礼品に加わりました。

「メイドイン福智」の技術の結晶を、まちの誇りとして返礼品にラインナップ。日立マクセルによる地域活動も深化し、地元の雇用や活性化につながっています。また、全国から注目されるのが、空港のない町としては極めて貴重なJALとの連携。イベントや教育活動とおした4年

気が遠くなるほどの作業と労力を経て得た福智のふるさと納税の実績。培ってきたつながりをもとに、地道なPRや市場調査、返礼品開発やカタログ作成、パッケージのデザインに至るまで、生産者と町が一体となって取り組んできた成果だと言えます。その返礼品は、魅力ある産品だけでなく、旅や体験にまで進化し、将来的な観光や定住へとつなげる可能性も広がっています。

福智の真価と更なる進化
間のつながりによって、今年7月、返礼品として国内初のJALパッククーポンによる福岡への旅行商品の導入が実現しました。



1 2 六本木ヒルズでのイベントに特別無料で出展。ふくち☆リッチジェラートとともに町をPR。3 4 5 6 グルメブースでは、福智町が福岡県と連携して特典化した博多和牛を提供。六本木ヒルズの増谷シェフのアレンジで「博多和牛丼」が販売され、真っ先に完売となる人気を博しました。7 8 連日多くの人が行き交う中、福智町ふるさと納税カタログを約2千冊配布。9 テレビ取材も多く、特に関東圏での「林修の今でしょ!講座」では福智町がクローズアップされ、大きな反響がありました。

福智のチャレンジで示された寄付額11億6千万円、件数5万件以上という成果。その数字は福智町の確かな「実績」として信頼を生み、さらに次のステップへとつながっています。
当初、実績日本一の長崎県平戸市とふるさと納税のリーダー企業「トラストバンク」からノウハウを学んできた福智町。この夏、そのつながりによって「六本木ヒルズ(東京都港区)」での町のPRが実現しました。テレビ朝日の夏祭りイベントで、トラストバンクが貸切フロアを提供し「ふるさとコレクション」を開催。全国有数の自治体と肩を並べ、7月15日から6日間、福智の特産品やふるさと納税をPRし、関東エリアでのテレビ放送でも福智町がクローズアップされました。
連日6千人が訪れた都心での活動は、町への寄付額にも反映され、昨年度実績を2か月上回るペースで現在2億円を突破。会場では、福智町への寄付者や地元出身者とも直に接し、その反響から、これまでの取り組みの成果を肌で感じました。

都心、六本木ヒルズで福智をPR

福智のまちづくりを支える「JAL」

平成24年のJAL情報誌掲載を機に、まちづくりの企画とスピード感が評価され、JALが町への支援を表明。イベントや教育活動などを幅広くサポート、メディアやPR面でも協力を得ています。



まち一番の企業「日立マクセル」

三菱方城炭鉱跡地に設立して46年目となる町内最大企業。敷地内の赤レンガ記念館は福智の炭鉱の象徴として親しまれています。約330人が働き、海外に6社の協力工場を有しています。



多くのつながりを生かして地道なPR活動を続けている福智町。6月23日にはJR博多駅で福天とともに町の紹介冊子などを手渡しました。



No.1 サイト「ふるさとチョイス」

全国1788の自治体情報が掲載されたトラストバンクが運営する国内最大のふるさと納税ポータルサイト。福智町では「ふるさとチョイス」をおおしての寄付が全体の約8割を占めています。



▲**活魚寿司たちばな** 昨年注文が殺到した「極みシリーズ」に、秘蔵のレシピから「鮭めんたい」を今年追加。一切妥協しない料理長が研究に研究を重ねて開発しました。「ふるさとチョイス」のプレミアムカタログ商品にも選ばれている逸品です。



▲**食味倶楽部 藤** 先代店長の教えを受け、福岡の郷土料理「水炊き」を店を挙げて研究。人気の華味鳥を使用し、鶏肉・鶏ガラ・7種の野菜を独自にブレンドした自慢の白濁スープは5時間煮込み、15分ごとにアクを除いてようやく完成します。



▲**ラーメンまむし** お昼の数時間で連日完売の人気店。濃厚スープは入念に下処理した豚のげん骨を福智の天然水で半日以上煮詰めて旨味を抽出。今回特別に「福天小槌」用のセットも開発し、こだわり抜いた味を生スープでお届けしています。



▲**福智ブランドファクトリー** 福智ブランドをPRするため平成25年に一般社団法人化し、福智素材を生かしたジェラートを県内37店舗で販売。ふるさと納税限定の味も「福天小槌」で購入できます。現在、一流シェフ集団「博多ミラベル21」監修の新品を開発中。10月22日、23日のスイーツ大茶会で発表予定です。



福智ブランド ロゴは町の象徴・福智山をデザイン。イベント時ののぼり旗やポロシャツ、トートバッグなどに幅広く展開し、新しい福智のイメージづくりに取り組んでいます。

福天小槌 2016年夏号 掲載店舗

- 福智ブランドファクトリー ●活魚寿司たちばな ●村上農園 ●豚肉工房
- うめちく ●焼肉ボタ山 ●食味倶楽部 藤 ●ラーメンまむし ●上野の里
- ふれあい市 ●藤食糧 ●ふくちの郷

店頭の専用注文書で注文すると10%OFF!
※8月31日まで



地域ブランド推進会議 会長 久富慶文さん
(活魚寿司たちばな 店長)

将来に向け何ができるか

町の取り組みが目目され、顧客は全国に広がりました。選んでもらえた、喜んでもらえたということは事業者にとっても自信になります。目先の利益だけを見るのではなく、さらに工夫して良いものを生み出し、自分たちで町を盛り上げていく意識を持たなければいけないと思っています。町を知ってもらう、良いイメージを持ってもらうことが、将来的には福智で働くわたしたちにも跳ね返ってくるのだと信じています。



↑定期的に勉強会を開き、情報や意識を共有する福天小槌の生産者たち。



ふるさと納税によって示された福智の真価と可能性。そんなまちの魅力と価値を共有し、ふるさとへ恩返しをしたいという生産者の思いが形になりました。先月の広報紙と一緒に配布された住民向けの商品カタログ「福天小槌」。ふるさと納税の特典生産者10店舗が加盟し、全国に通用する産品が集められています。7月からスタートしたばかりの「福天小槌」ですが、今後、旬の収穫物や年末のお歳暮商品など、内容はさらに充実の予定です。現在の店頭注文、FAX注文に加え、通販やクレジットカード

培った力を合わせたオリジナルカタログ誕生

にも対応しながら、ウェブを活用して全国展開を狙います。

「福智町には何も無い」と言っていた人々の意識が、ふるさと納税をきっかけに動き始めました。研究を重ね新たな商品開発を行う生産者、町を訪れてもらう仕組みを知って福智に本店したいと声を上げた店舗など、これまでの創意工夫はさらに進化を遂げ、発展しています。それぞれが待ちの姿勢から変化しつつある今。情報を共有することで、地産地消から地産多消へと意識が高まっています。

ふるさとの力で「福智」をブランドに

最近まで、県内の人からも名前を知られていなかった福智町。言い換えれば、新たなイメージを創り出せる「地域ブランド化」の好機ともとらえられます。また、全国にPRできたふるさと納税は、福智町の知名度向上に大きなチャンスをもたらしました。地域の商品が売れて付加価値が付く。地域が知られてイメージが定着する。その相乗効果によるメリットは、観光や定住、経済効果といった幅広い分野にまで波及し、わたしたちの暮らしに返ってきます。町の名前を知られていなければ、それらの選択肢に上がることはありません。この町には、他の地域にも決して引けを取らない産品がたくさんあります。まずはみなさん自身、ふるさとの魅力を実際に確かめてみてください。町に住む一人ひとりが、その魅力をまちの誇りとして実感し、発信してこそ、福智のブランド化はこれからも進み続けていくはずですよ。

